

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
(1)	学生の確保の見通し.....	2
ア	定員充足の見込み.....	2
イ	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要.....	3
(2)	学生確保に向けた具体的な取組状況	4
2	人材需要の動向等社会の要請	6
(1)	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	6
(2)	上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 (2021年度(2022年3月作成)現在)	6

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

① 入学定員設定の考え方

今回の設置届出では、ライフデザイン総合学科のライフデザインコースの入学定員は60名、栄養士コースの入学定員は40名で設定した。

現在、本学の短期大学は、ライフデザイン学科入学定員(80名)、食物栄養学科入学定員(70名)、幼児教育学科入学定員(150名)としている。

これは、教育の質の保証と学修成果をあげうる教育の実現、きめ細やかな学生指導等の観点から、各学科の教員組織とを鑑みて設定しているものである。

今回のライフデザイン総合学科のライフデザインコース60名、栄養士コース40名については、改組前の各学科を母体として、直近過去5年(平成29年度～令和3年度)の入学者数実績の推移を踏まえ、これからの18歳人口の減少と、教育の質の確保等を総合的に勘案し、設定した。

(資料1：過去5年入学者数の推移表)

② 定員充足する見込みがあること

○今回の入学定員の設定にあたり、上記の過去5年入学者数の推移表から、直近の3カ年の平均入学者を算出すると、ライフデザインコース(60名)については69名、栄養士コース40名については60名となり、この数値から今後も同程度の水準の入学者数は期待できると考えている。(資料1：過去5年入学者数の推移表)

○日本私立学校振興・共済事業団「令和3(2021)年度 私立大学・短期大学等入学志願動向」調査から、

i 「2. 地域別の動向(短期大学・学校別)」調査から、「近畿(京都、大阪、兵庫を除く)」の関西圏では、厳しい短期大学の厳しい状況の中で、「入学定員充足率」は、令和2年度(86.48)と令和3年度(89.53)を比較するとプラスの状況にあること、また、その志願倍率は、1.16(H29)～1.23(R3)と安定していることなど、本学は京都府宇治市をはじめとして南部地域と滋賀県からの学生が多く、今後は、奈良県からの学生確保も動き出しており、関西圏には高校生の潜在ニーズはあると確信している。(資料2)

ii 「4. 学科系統別の動向(短期大学)」調査から、令和2年度と令和3年度の入学定員充足率を見ると、一番減少率が低い系統は、『保健系』、次に低いのが『教育系』、『家政系』、『社会系』『その他』『農工系』の順となっている。

今回設置する新学科の分野は『家政系』であるが、新学科の設置にあたり、ライフデザイン総合学科のDP(ディプロマポリシー)においては、特に『健康』『生活』『社会』をキーワードとし、家政学の視点からのアプローチとして具現化すべく教育課程を編成した。この系統上位にある『保健系』の健康分野について、教育課程の補強を強めており、更に一層の広報活動を強め、高校生・

社会のニーズに対応しているものと期待している。(資料3)

○2021年度入学者数の実績から、本学の学生の出身高校を所在地県別に見ると、関西圏が92.9%と圧倒的に多く、次に北陸地区3.6%、中部地区1.3%となっており、関西圏の県別で入学者数を見てみると、京都府130名、滋賀県47名、大阪府16名、奈良県8名、兵庫県と和歌山県からは0名となっている。

現状の入学状況から、「新規開拓」を主眼として、3番目・4番目の大阪府所在の高校(20校)と、奈良県所在の高校(6校)を対象に、①本学に公共交通機関利用(近畿鉄道)で便利な地域、②現在在学学生はいないが、過去に進学実績のある高校、に対して2021年度に教員と事務職員が直接高校へ出向いた広報活動を実施し、進路指導の教員に本学の3学科および新設学科の特徴等を説明したところ、今後本学への資料要求などよい感触を得ており、2023年4月開設の新学科への進学実績確保を想定している。

(資料4：京都文教短期大学 FACTBOOK2021 01 学生数・学生出身地から)

(資料5：2021年度 大阪府・奈良県所在の高校訪問実績)

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 長期的に学生確保できる見込みの説明

(ライフデザイン総合学科 入学定員 100名)

ライフデザイン総合学科の学生確保の見通しを調査するためのアンケート調査を実施した。(資料：新学科設置構想についての高校生アンケート調査)

【実施概要】

実施期間：2021年12月～2022年1月21日(金)

協力校：京都府立東稜高等学校 2年生(192人)

京都文教高等学校 2年生(275人) 1年生(322人)

総合計：789人

アンケート調査は、本学への進学実績のある京都府2校の生徒について、新学科の開設に対象となる高校2年生と、1年生を対象に、2021年12月～2022年1月にかけて、総合計789人の高校生の協力を得て実施した。調査方法は以下の通りです。

- ・アンケートの実施の了解を得た高等学校にアンケート用紙を送付
- ・高等学校の教職員から、高校2年生と1年生にアンケート用紙を配布
- ・10分程度の回答時間を設け、終了後、その場で回収し、本学にて集計する。

有効回答789人のうち、「問3. 設置構想中の「ライフデザイン総合学科」に興味関心があるか」の問いに、i 興味・関心がある、の回答が62人(7.9%)、ii もっと内容を知りたい、の回答が86人(10.9%)、iii もう少し特徴が分かれば検討したい、の回答が155人(19.6%)、iv 興味関心はない、の回答が480人(60.8%)であった。このi～iiiの興味・関心のある者等(計305人)に対して、次の問い

に進んで実施した。

「問4. ライフデザイン総合学科を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。」の問いに、i 入学したい、の回答が45人(14.8%)、ii 併願の結果によっては入学したい、の回答が260人(85.2%)であった。

今回の調査は、2校(789人)のみであるが、本アンケート調査結果の数字以上に本学への入学希望者がいることが期待している。

以上のように、このアンケート調査から、入学定員100名を超える入学者は十分可能であると考ええる。

●本学(京都文教短期大学)が実施した志望状況調査

資料6:新学科設置構想についての高校生アンケート調査表

資料7:新学科設置構想についての高校生アンケート調査の『集計表』

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

- ア オープンキャンパスの開催
- イ 職員による高等学校訪問
- ウ 教員による高等学校訪問
- エ 職員による進学相談会参加
- オ 教員による模擬授業の実施
- カ コロナ禍の受験生に寄り添う進学サポートの実施
- キ その他

ア オープンキャンパスの開催

本学に入学を検討する者の興味を獲得する為、オープンキャンパスを実施し、学科の教育内容、学生の雰囲気やキャンパスライフ、さらには必要な費用や就職状況等、入学検討者やその保護者に対し、直接、具体的にその内容を説明する。また、上記の精度向上を図る為、在学生を積極的にスタッフに加えて運営する。2021年度は、春・夏に7回、秋・冬に6回の合計13回のオープンキャンパスを実施した。春・夏、秋・冬と、受験生の進路選択に寄り添うかたちでオープンキャンパスの実施内容に変化をつけながら実施し、参加者から高い満足度を獲得した。2021年度の春・夏に実施したオープンキャンパス参加者数は、延べ442名、秋・冬に実施したオープンキャンパス参加者数は、延べ13名となっている。

2022年度は、春・夏に7回、秋・冬に6回の合計13回の開催を計画している。積極的にオープンキャンパスに関する広報を展開し、2021年度以上の参加者獲得を狙う。

イ 職員による高等学校訪問

高等学校の進路指導担当者と個別相談の機会を設け、高等学校との情報交換を密にし、本学の特徴を理解した適切な志願者確保に務める。重点的に訪問する高等学校は、本学への進学実績、高等学校のランクや専門性、通学圏などを勘案し、京都府の高等学校42校、滋賀県の高等学校38校とし、その他の高等学校への訪問も必要に応じて実施する。高等学校を訪問した際、単に学科の内容や、入学試験制度の紹介に留まらず、設置計画の進行状況報告

や新学科の入試制度、学生支援体制等について詳しく説明する。

ウ 教員による高等学校訪問

高等学校の高校生への進路指導の中に本学が選択肢となる可能性を高めるため、職員の訪問対象としていない高等学校を中心に、教員が高等学校を訪問し、本学学科の教育上の特徴や就職状況の詳細に至るまでを説明する。対象校は、過去に本学への進学実績があり、かつ、高等学校の教育内容に、本学の専門性と接点を見出せそうな、京都府 10 校、滋賀県 6 校、福井県 6 校の計 22 校とする。並行して職員による高等学校訪問も行うため、相互に連携を図り、組織レベルで先方との認識の齟齬が発生しないよう対応する。

エ 職員による進学相談会参加

業者企画への参加や高等学校からの依頼等に積極的に対応し、職員を中心に進学相談会に参加し、ブースを訪れた高校生・保護者に対し、学科内容や入試制度等の説明を直接行う。このような機会を積極的に活用し、志願者の獲得を狙う。

オ 教員による模擬授業の実施

高等学校の生徒に直接、学科の魅力を伝えるため、模擬授業の依頼に対して積極的に対応する。また、このような機会を多く獲得することを狙い、教員の専門分野や模擬授業テーマなどを一覧とした資料を作成し、高等学校に配布し、高等学校の進路指導に寄与し、本学への関心を獲得する。

カ コロナ禍の受験生に寄り添う進学サポートの実施

非対面での進学サポートを希望する進学検討層をターゲットとし、オンライン上で個別進学相談ができる仕組みを構築し展開する。一つは LINE を利用し、チャットで相談ができるもの。一つは GoogleMeet を利用し、お互いの表情を確認しながら相談ができるものである。これを推進することにより、利用者に安心感を提供し、進学検討層を育て、志願者の獲得を狙う。

キ その他

進学情報誌や進学情報サイト、ホームページなどにて情報を発信する。また、大学案内、入試ガイドなどの広報媒体を、資料請求者宛に発送し、広く学科の存在感の浸透を図る。ホームページにある受験生サイトの内容を、新年度に向け更新し始めているが、2021 年 4 月 1 日から 2021 年 1 月 31 日までの 10 か月間の実績が、新規ユーザー獲得率前年同期比で 135.6% (4,365/3,219) と高まっている。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【ライフデザイン総合学科〈 Department of Design for Contemporary Life 〉】

◎現代生活の諸問題に加えて、地球規模で起こっている新たな問題について、家政学の視点で、生活原理に基づいて考え、解決できる人材の育成を目的とする。多角的な視点から科学的に追及し、専門性を高めるために2つのコースを設定する。

ライフデザインコース

○生活者として幅広い視点から、人と環境に関する諸問題を発見し、積極的・主体的に行動する態度と生活の質の向上を追求するための知識と技術を修得し、問題解決力・社会人基礎力・情報活用力を身につけて、ビジネスと持続可能な社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

栄養士コース

○栄養に関する専門的な知識と技術を修得し、食事の管理を中心とした諸問題の認識、給食業務に必要な調理力を高めることを目的とし、問題解決力・社会人基礎力を身につけて、食事の管理と持続可能な社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 (2021年度(2022年3月作成)現在)

○地域社会の活力の低下や多極分散型の国家形成の必要性も踏まえ、大学には地域における人材育成や地域産業の発展等幅広い観点での貢献が期待されており、18歳人口の減少局面にあたり、産業界の定年制の撤廃等就業世代の年代は幅広くなっている。しかしながら将来的な社員の年代バランスを考慮した人材需要の観点から、新卒採用の動向については急激な下降線を辿っていない。

本学への求人受付数は幼稚園、保育園等の幼児保育関連の求人を除き、2018年度は583、2019年度は541、2020年度は470、2021年度は402と漸減はしているが、新卒人口の減少トレンドから社会的な短期大学卒業生の人材需要としては整合性がある。

このような現状の中、本学は社会的な要請に応えるべく、短期大学本来の実践型教育を実践した結果、就職決定率においては高い数値の推移である。

過去を振り返ると、2007年度就職決定率は95.4%であったが翌年2008年9月発生のリーマンショックの影響から2008年度は86.2%、2009年度は76.5%と大きく落ち込んだ歴史があった。

しかしながら2020年1月からの新型コロナ禍の影響で、人流抑制の影響からの企業収益の大幅な減少が見られたにも関わらず、リーマンショックと同様な就職決定率の大きな落ち込みは見られない。以下の就職決定率はその証左である。

(*2021年度現在の設置学科：ライフデザイン学科、食物栄養学科、幼児教育学科)

2018年度 就職決定率 99.5% (就職決定者数 384、就職希望者数 386)

幼児教育学科を除く就職決定率 98.8% (就職決定者数 162、就職希望者数 164)

2019年度 就職決定率 99.3% (就職決定者数 305、就職希望者数 307)

幼児教育学科を除く就職決定率 98.6% (就職決定者数 145、就職希望者数 147)

2020年度 就職決定率 99.3% (就職決定者数 266、就職希望者数 268)

幼児教育学科を除く就職決定率 99.2% (就職決定者数 124、就職希望者数 125)

上記の様に、直近の3ヶ年も高い就職決定率を推移している。

○関西圏の産業界を中心に多くの企業へ就職し、本社所在地の都道府県別就職先状況は以下の通りである。(本学所在の京都府及び隣接1府2県抜粋、幼児教育学科を除く)

2018年度 就職決定者数 162人

京都府 62 (38.3%) 滋賀県 18 (11.1%) 大阪府 27 (16.7%) 奈良県 4 (2.5%)

その他 51 (31.4%)

2019年度 就職決定者数 145人

京都府 76 (52.4%) 滋賀県 12 (8.3%) 大阪府 18 (12.4%) 奈良県 2 (1.4%)

その他 37 (25.5%)

2020年度 就職決定者数 124人

京都府 59 (47.6%) 滋賀県 16 (12.9%) 大阪府 22 (17.7%) 奈良県 2 (1.6%)

その他 25 (20.2%)

○京都府伏見区の行政区に隣接した京都府宇治市に所在する本学学生に対する、地域的な人材需要動向としては旺盛な現況であり、兵庫県、和歌山県を除く関西圏への就職比率は直近3年間では地元への人材密着として高く上昇中である。

2018年度 68.5% (111/162)

(京都府、滋賀県、大阪府、奈良県への就職決定者数 111、幼児教育学科を除く就職決定者数 162)

2019年度 74.5% (108/145)

(京都府、滋賀県、大阪府、奈良県への就職決定者数 108、幼児教育学科を除く就職決定者数 145)

2020年度 79.8% (99/124)

(京都府、滋賀県、大阪府、奈良県への就職決定者数 99、幼児教育学科を除く就職決定者数 124)